

製品名 プールボンE-960

AGCコーテック株式会社

系統	エポキシ樹脂系下地調整材				
特徴	1. 若齢・湿潤コンクリートに優れた接着性を有しています。 2. 作業性に優れています。				
用途	RC、PCプール用下地調整材				
荷姿	24 kgセット (主剤: 2 kg 硬化剤: 6 kg 粉体: 16 kg)				
色相	主剤: 淡黄色透明 硬化剤: 淡褐色透明 粉体: 灰白色				
組成 適用法令	主剤	樹脂ワニス	100	消防法 危険物区分 第4類第3石油類(非水溶性) 危険等級 III	
		計	100		労働安全 衛生法 有機則 第(3種有機溶剤)
	硬化剤	樹脂エマルジョン 水	28 72	消防法 危険物区分 該当なし	
		計	100		労働安全 衛生法 該当なし
	添加剤	特殊フィラー	100	消防法 危険物区分 該当なし	
		計	100		労働安全 衛生法 該当なし
	塗料性状		粘度(Pa·s)	比重	加熱残分(%)
		主剤	1.0	1.15	100.0
硬化剤		0.03	1.00	22.0	
粉体		—	2.75	100.0	
混合液		—	—	81.0	
※ 塗料性状に記載している数値は代表値を示すものであり、若干の変動があります。					
取扱上の注意	別紙及びSDSを参照してください。				
塗装条件	雰囲気	温度5℃以上、湿度85%RH未満			
	混合比	主剤 : 硬化剤 : 粉体 = 1 : 3 : 8			
	希釈剤	—			
	塗装方法	コテ			
標準所要量 希釈量	塗装方法	所要量(kg/m ²)			希釈率
		理論	塗着効率	標準	
	コテ	—	—	0.09 ~ 1.10	—
※ 上記標準所要量は、標準的な所要量であり、被塗物の形状・素地状態及び塗装方法により、差が生じます。					
標準膜厚	希釈率	標準膜厚(μm)			
		乾燥膜厚	WET膜厚		
	—	500	—		
ポットライフ		23℃			
乾燥時間	ポットライフ	70分			
塗装間隔	指触乾燥	2時間			
	半硬化乾燥	10時間			
	硬化乾燥	—			
	塗装間隔	—			

※ 上記標準所要量は、標準的な所要量であり、被塗物の形状・素地状態及び塗装方法により、差が生じます。

標準膜厚	希釈率	標準膜厚(μm)	
		乾燥膜厚	WET膜厚
	—	500	—

ポットライフ		23℃
乾燥時間	ポットライフ	70分
塗装間隔	指触乾燥	2時間
	半硬化乾燥	10時間
	硬化乾燥	—
	塗装間隔	—

※ ポットライフと乾燥時間は目安です。無希釈、一定の温度条件の恒温槽にて測定したものです。

※ 乾燥時間の測定方法は、JIS K 5600-1-1 4.3.5 によります。

※ 本書類の内容は、予告なく変更する場合があります。

制定: 2007年3月1日 改定: 2022年1月1日

取扱い上の注意事項

1. 取扱い方法及び保管
 - ・十分に攪拌してからご使用ください。
 - ・被塗面の油脂、塵埃、水分などの付着物は除去してください。
 - ・開封後は出来るだけ早くご使用ください。
 - ・火気のあるところでは使用しないで下さい。
 - ・取扱い作業場所には、局所排気装置を設けて下さい。
 - ・塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気を吸込まないようにして下さい。
 - ・取扱い中は、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて、有機ガス用防毒マスク又は送気マスクを付け、更に頭巾、保護めがね、長袖の作業衣、えり巻きタオル、保護手袋等を着用して下さい。
 - ・容器からこぼれた場合には、ウエスで拭きとって、水をはった容器に保管して下さい。
 - ・塗料あるいは溶剤等の付着したウエスや塗料カス、スプレーダスト等は廃棄するまでは、必ず水に漬けておいて下さい。
 - ・取扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行って下さい。
 - ・缶上部の取っ手は手下げ専用です。ロープやフック等を取っ手に取り付けてつり下げないで下さい。
 - ・貯蔵中は容器を密閉し、直射日光や雨のあたらない、換気の良い一定の場所を定めて保管して下さい。
 - ・部外者の出入りできないところで、かつ子供の手の届かないところに保管して下さい。
2. 救急処置
 - ・皮膚や着衣に付着した場合は、水やせっけんで十分に洗い落とし、皮膚に痛みや外観の変化があるときは、医師の診察を受けて下さい。
 - ・目に入った場合は、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
 - ・蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
 - ・誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の診察を受けて下さい。
3. 火災時の処置
 - ・万一、火災が発生した場合には、炭酸ガス、泡又は粉末消火器を用いて下さい。
4. 廃棄
 - ・廃材、材料の付着したウエス等は安全な方法で保管し、廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
 - ・容器は中身を使い切ってから、廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
5. 誤使用
 - ・本来の用途以外(シンナー遊び、汚れ落とし等)に使用しないで下さい。
 - ・指定された以外の材料と混合しないで下さい。
6. 詳細情報
 - ・詳細な情報が必要な時は、安全データシート(SDS)をご参照下さい。
7. 低温時に塗装する際の注意事項

想定される状態		発生する不具合		対策、注意点
下塗が未硬化の場合		<ul style="list-style-type: none"> ・下塗り成分が移行(ブリード) ・ちぢみ(旧塗膜がある場合) ・上塗り塗膜との融合 		<ul style="list-style-type: none"> ・下塗り塗膜が硬化状態にあることを確認する。 ・下塗り塗膜に外観異常がないか確認する。
硬化速度の低下		<ul style="list-style-type: none"> ・塗装後の結露や降雨による影響を受ける時間が長くなってしまう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・塗装後に気温の低下、降雨の恐れがある場合は、塗装しない。
水分の混入	塗装前	結露	<ul style="list-style-type: none"> ・塗膜の膨れ、発泡、軟化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・塗装前に被塗面の状態を確認する。
	塗装後	結露 降雨	<ul style="list-style-type: none"> ・塗膜の膨れ、発泡、雨跡の形成、艶の低下、白化など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・塗装後に気温の低下、降雨の恐れがある場合は、塗装しない。